

朝日ヶ丘公民館だより

(公益財団法人) 千葉市教育振興財団
千葉市朝日ヶ丘公民館 6月号

TEL 043(272)4961 FAX 043(271)6994

✉ asahigaoka@chiba-kominkan.jp

「つどい まなび つなぐ ～地域の皆様に愛される 地域主体の公民館をめざして～」

迷い犬事件

館長 長谷部 芳彦

「館長、犬が長い時間鳴いています。」と知らせを受けました。耳を澄ますと、確かに犬の鳴き声が聞こえます。全く気づかなかった私は、鳴き声のする方に急いで向かいました。坂道を上り、公民館の掲示板のある所まで行くと、本公民館のフェンスにプードルが繋がっていました。また、そこには、心配そうに見守ってくださるご夫婦もいました。お二人との話の中で、「迷い犬」と書かれた段ボールの看板やイチゴパックに入れられた水は、そこにいたご夫婦ではない誰かが用意してくれたこともわかりました。

警察への連絡の必要性を感じ、急ぎ公民館に戻ろうとすると、2階で活動していたサークルの皆様も心配そうに窓から顔をのぞかせて見てくれていました。「警察に電話します。」と伝えると、安心してくださり、活動に戻られました。

警察署員が到着するまで、ご夫婦と共にフェンス前でしばらく待っていると、車から降りてきた親子が、自分たちがプードルの持ち主だと告げました。私は、「この件について警察に連絡してあるので、持ち主が来たことを警察署に再度伝えるので、待っていてほしいと」添え、公民館に戻り警察署に連絡しました。持ち主に待っていていただく必要があるかと考え、スタッフにその旨を伝えてもらおうとフェンスに向かってもらいました。連絡を終え、フェンスに向かうと、何と、持ち主と名乗った親子も、犬を見守ってくださったご夫婦も、看板もイチゴパックも、もちろんプードルもいなくなっていました。

到着した警察署員に事情を説明している時に、プードルの持ち主である方が警察署に出向き、一件落着となったことがわかりました。ちょうどその時、なんとプードルをフェンスに繋いでくださったという女性が通りかかりました。プードルが信号付近にいて、そのままでは交通事故につながる危険を感じたので、プードルのいることがわかるように公民館の掲示板脇に繋いだこと、リードだと思っていたのは、女性が使っていた紐だったことなど、様々な事がわかりました。

サークル活動を終えた皆様からは「どうなったの?」と心配する声をかけていただき、持ち主が見つかったことを伝えると、口々に「よかったわね」と安心して帰られました。

この件でしみじみと思ったのは、この地域に住む皆様やサークル活動をする皆様の優しさです。プードルに向ける優しさが行動となって現われなければ、プードルの命はどうなっていたかわかりません。

心優しき人々の住む町にある公民館で仕事のできることを嬉しく思います。

人々のつながりがプードルの命を救いました。